

2025年5月・6月公演
舞台『Take Me Out』2025
全キャストオーディション開催決定！

藤田俊太郎演出による舞台『Take Me Out』の再演に際し、全キャストを一般公募しオーディションを実施することが決定致しました。

舞台『Take Me Out』はメジャーリーグの華やかな選手たちの関係を捉えながら、そこに渦巻く閉鎖性によって浮き彫りになる人種問題や社会的マイノリティに深く切り込み、私たちが向き合うべき実情にスポットを当てた作品です。

2003年度のトニー賞作品賞、助演男優賞を受賞し、2016年の日本初演では第51回紀伊国屋演劇賞 団体賞を受賞。2018年に再演を果たしました。

2023年のWORLD BASEBALL CLASSIC 優勝や、日本人メジャーリーガーの活躍により野球界へ熱い視線が向けられている今、演劇界での注目を集め続ける藤田俊太郎が、本作3度目の演出にして「Take Me Out」が向き合ってきた問題を再び問う。

2025年の公演では2016年、18年の上演を支えたキャストを含むレジェンドチームと、新メンバーで構成するルーキーチームの2チームを結成。

この度、ルーキーチームのメンバーを選抜する全キャストオーディションの実施が決定しました！

さらに、今回は新たな才能に出会うべく、**演技経験不問の一般公募によるオーディション**を実施致します。

レジェンドチームの詳細など、詳しい公演情報につきましては改めて情報解禁致しますのでお待ちください。

主催／企画・制作 シーエイティプロデュース

◆ オーディション概要

一次審査：映像による審査

応募データ 2024年4月15日(月) 正午必着

二次審査：ワークショップ形式による実技審査

(都内スタジオにて2024年5月下旬～6月上旬を予定)

※二次審査の詳細は一次審査通過者にご案内致します。

オーディションの結果は6月中旬頃の発表を予定しております。

◆ 『Take Me Out』 あらすじ

男たちの魂と身体が燃え滾る、「ロッカールーム」。彼らにとってそこは、すべてをさらけ出せる楽園だった。

ひとりのスター選手による、あの告白までは――。

黒人の母と白人の父を持つメジャーリーグのスター選手、ダレン・レミングは、敵チームにいる親友デイビー・バトルの言葉に感化され、ある日突然「ゲイ」であることを告白。それは、150年に及ぶメジャーリーグの歴史を塗り替えるスキャンダルであった。

ダレンのカミングアウトに対し、チームメイトのキッピーをはじめ、キャッチャーのジェイソンや会計士のメイソン、監督のスキッパーらは好意的であった。しかし、セカンドのトッディや、ドミニカ人選手のマルティネスとロドリゲスらは怪訝な態度を示す。そして、日本人選手のタケシ・カワバタは相変わらず何も語らなかった。やがてダレンが所属する「エンパイアーズ」内には軋轢が生じ、次第にチームは負けが込んでいく……。

そんなときに現れたのが、天才的だがどこか影のある投手、シェーン・マンギット。圧倒的な強さを誇る彼の魔球は、暗雲立ち込めるエンパイアーズに希望の光をもたらしたのだが――。ある日、全国放送のインタビューに応えたシェーンは、「あいつとシャワーに入るのは気持ち悪い！」と発言。チームに再び波乱を巻き起こすのであった……。

<オーディション対象配役>

メイソン・マーゼック	語り手、ダレンのエージェントで会計士、ユダヤ人
キッピー・サンダーストーム	語り手、ダレンのチームメイトで名選手、白人
ダレン・レミング	アフリカ系アメリカ人のスラッガー
シェーン・マンギット	抑えのピッチャー、南部の白人
デイビー・バトル	他球団のスラッガーでダレンの親友、黒人
ジェイソン・シェニアー	チームの新入りキャッチャー、白人
トッディ・クーヴィッツ	白人のチームメイト
タケシ・カワバタ	日本人のチームメイト
マルティネス	ヒスパニック系のチームメイト
ロドリゲス	ヒスパニック系のチームメイト
スキッパー	冷徹さと優しさを持つ50代位の監督、白人

上記、全役のキャストをオーディションにより決定します！

オーディションの開催にあたり、演出の藤田俊太郎からメッセージが届きました。

◆ 演出：藤田俊太郎



©KEI OGATA

『Take Me Out』2025年公演のスタートに寄せて。

『Take Me Out』は読む度にいつも新しい価値観が見つかり、そして演出する度にいつも私に新鮮な演劇の美しさを与えてくれる戯曲です。これまで2度演出を担ってきましたが、また挑戦したいと常々願っていたこのせりふ劇に向き合える機会をいただけたことを心から嬉しく思っています。しかも、今回のシーズンは2016年、18年の公演を共に創った仲間たちを中心とするレジェンドチームと全キャストオーディションにてご一緒する新チームの2チームで創作するというプロジェクトが始まり、2025年の上演に向けて今からとても興奮しています。オーディションは演技経験不問の一般公募。たくさんの演技者、表現者に会えるチャンスを与えてくださったシーエイティブロデュースの皆様には感謝しかありません。オーディションに関しては、映像による一次審査は参加して下さる全員、責任を持って全て観させていただきます。その後二次審査は、具体的に演出プランを伝えて、稽古初旬のようにその場にいる参加者全員でシーン構築していくワークショップ形式でのオーディションを実施致します。

オーディションは演技経験不問の一般公募。たくさんの演技者、表現者に会えるチャンスを与えてくださったシーエイティブロデュースの皆様には感謝しかありません。オーディションに関しては、映像による一次審査は参加して下さる全員、責任を持って全て観させていただきます。その後二次審査は、具体的に演出プランを伝えて、稽古初旬のようにその場にいる参加者全員でシーン構築していくワークショップ形式でのオーディションを実施致します。

これまでこの作品を通して出会った全ての方、キャスト、プランナー、スタッフ、カンパニーに心からのリスペクトを込めて、2025年の公演ではこれまで培った演出の核となるものを大事にしなが、真っ新たな気持ちで臨みたいと強く思っています。全体の規模感も公演する劇場も演出のアプローチも一新します。キャストお一人お一人の個性を大事に、対話を積み重ねて、それぞれの魅力が溢れる2チームを創り上げたいと思っています。

今思うと、初めてこの本に出会った時になんと魅力的な言葉の力を持った物語なのだろうと感動しました。舞台は2000年代初頭と思われるアメリカニューヨーク、メジャーリーグのベースボールチーム。ロッカールームやシャワールーム、グラウンドでの登場人物のやり取り、様々な会話によって立ち上がる主題は多岐に渡ります。異なる人種間の理解と不寛容。人と人の心の融和と、受け入れ合うことができない差別。マイノリティとマジョリティ。既成概念と革新的な考え方。勝つことと負けること。正しいことと正しくないこと。裕福と貧しさ。連れ出すこと、もしくは追い出すこと。身を守ることと攻撃すること。台本の中で'楽園'という言葉で表現される野球を通したアメリカの現代社会を描きながら、作品全体が喜劇的であり悲劇的です。生きる喜びと、日々何かを損なうという、失う悲しみをも描いています。劇中に'言葉にするのが難しいだけかな'というせりふがありますが、言葉を尽くしてそれでもまだ語り尽くせない野球の感動が演劇と交錯することで、新しい感情の表現を生み出しています。

会計士である「メイソン」がこのチームを外側からの観た語り部となり、スポーツの魅力を活かした言葉に宿して響かせ、その中心にいるファイブツールプレイヤーと称される大スター選手、黒人と白人のミックスである「ダレン」と愛を交歓します。もう一人の語り部である「キッピー」が選手代表としてチームを内側から語る視点を持つことでこの作品が独自の魅力を持つこととなります。白人の「トッディ」が実に人間らしくこの状況に反応し堂々と自己主張し、アメリカ南部出身の天才投手「シェーン」の言動が仲間たちに修復することができないひびを入れ、ムードメーカーであるキャッチャーの「ジェイソン」がチームの不和を正そうとする役割を持ちます。中南米出身の「マルティネス」の佇まいと強烈な個性が場に開放感や彩りをもたらし、「ロドリゲス」の持つ陽気さ、アメリカ出身ではない者の事象への対峙が舞台に深みをもたらします。日本人メジャーリーガーのパイオニアのような存在の「カワバタ」の苦悩がリアリティを持ち、監督の「スキッパー」が全ての騒動を見守り、発言には大きな影響力があります。ライバルチームで黒人の実力選手である「デイビー」の死、かつてのダレンとの深い友情を想い、観客は胸を痛めることとなります。

劇は、'ここではないどこかへ連れ出してくれる存在'を支柱としながら、終幕に向かいます。幕切れは、様々な解釈をすることができます。私は、'人は互いを称えあい生きている'という人間讃歌を描いているのではないかと感じ、演出家としての愛をラストシーンに込めたいと思っています。アメリカにおける2025年の'今'を鑑みながら、この作品を通してどのような演劇を創ることができるのか、カンパニー一丸となって挑戦し、追い求めていきたいと思っています。『Take Me Out』2025年シーズンに向けての全キャストオーディション、たくさんの方の応募を心からお待ちしております。

藤田俊太郎（ふじた・しゅんたろう）

1980年生まれ、秋田県出身。東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業。演出作に『The Beautiful Game』『美女音楽劇人魚姫』『ミュージカル手紙』『ジャージー・ボーイズ』『sound theaterVI, VII, 2023』『Take Me Out』『ダニーと紺碧の海』『ジャージーボーイズ ザ ミュージカル イン コンサート』『ミュージカル ピーターパン』『LOVE LETTERS』『ミュージカル VIOLET』（英国版/日本版）「絢爛豪華 祝祭音楽劇『天保十二年のシェイクスピア』』『NINE』『東京ゴッドファーザーズ』『ミネオラ・ツインズ』『ラビット・ホール』『ヴィクトリア』『ラグタイム』『東京ローズ』読売演劇大賞第22回優秀演出家賞・杉村春子賞/第24回最優秀作品賞・優秀演出家賞/第28回優秀作品賞・最優秀演出家賞/31回大賞・優秀作品賞・最優秀演出家賞、第42回菊田一夫演劇賞、第42回松尾芸能賞優秀賞受賞。あきた芸術劇場ミルハスアドバイザー。